

## 《費用対効果分析説明資料》

事業名	県営地すべり防止事業	地区名等	芦花地区
-----	------------	------	------

## 【費用対効果の算定内容】

## 1. 費用対効果の算定根拠

『林野公共事業における事前評価の手引き』(平成19年版)に基づき算定。

本手引きは、山地災害(土石流、山腹崩壊、地すべり)等の防止及び復旧を目的として実施する森林整備、治山ダム、山腹工、地すべり防止工等の事業整備(総費用C)によってもたらされる人家、道路等の資産被害の防止効果を便益(B)として評価するものである。

## 2. 地すべり防止事業に要する費用

C: 総費用 = 908百万円

## 総費用算出根拠

- ・地すべり防止施設整備等に要する費用(地すべり防止事業負担額)と維持管理費に要する費用を現在価値化したものの総和とする。
- ・総事業費(地すべり防止事業費) = 810百万円
- ・現在価値化: 社会的割引率(4%)により現在価値化する。

## 3. 地すべり防止事業の効果(便益)

B: 総便益 = 1,233百万円

## 総便益算出根拠

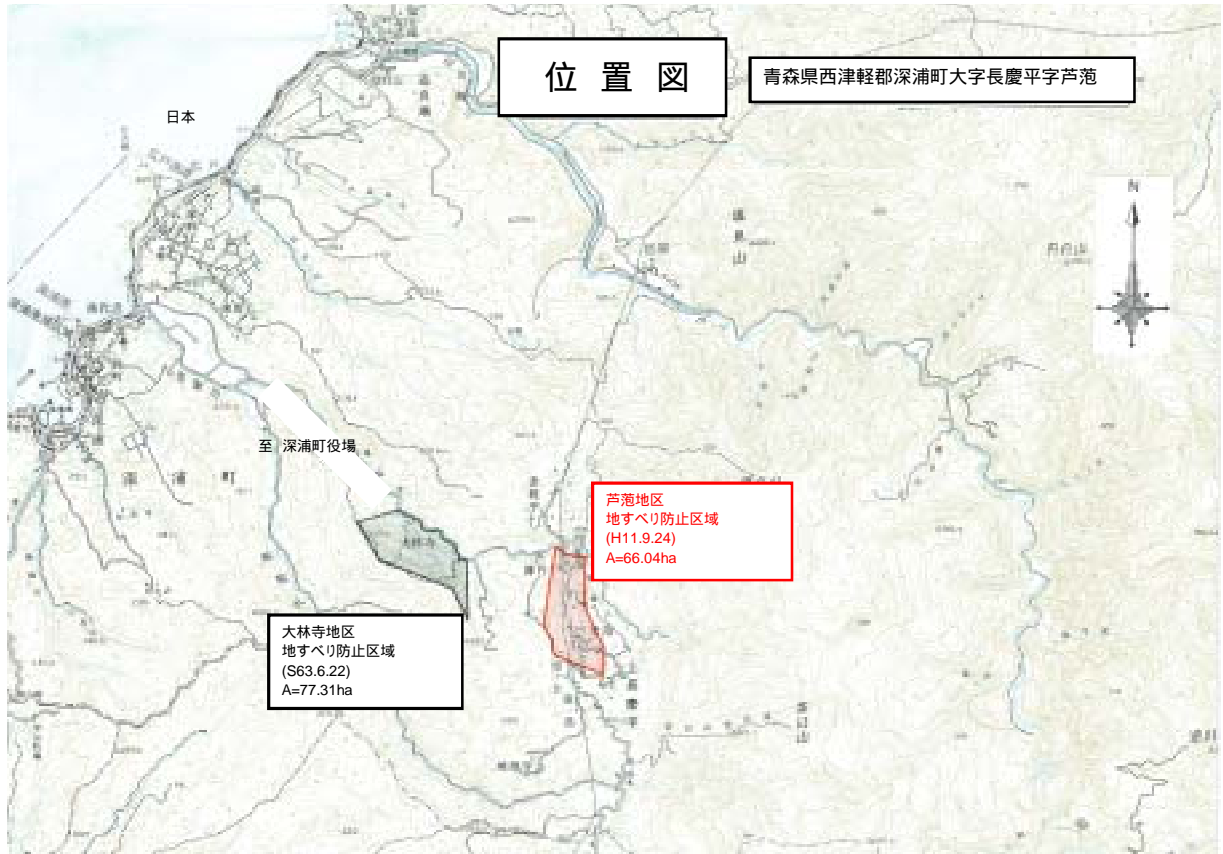
- ・地すべり防止施設整備によってもたらされる被害総定額(年平均想定被害額)を現在価値化したものの総和とする。
- ・被害想定額

種別	数量	被害総定額
家屋・官公署等施設	18戸	338百万円
家庭用品	16戸	239百万円
農作物(農地)	2.1ha	2百万円
町道・林道	7,600m	651百万円
計		1,230百万円

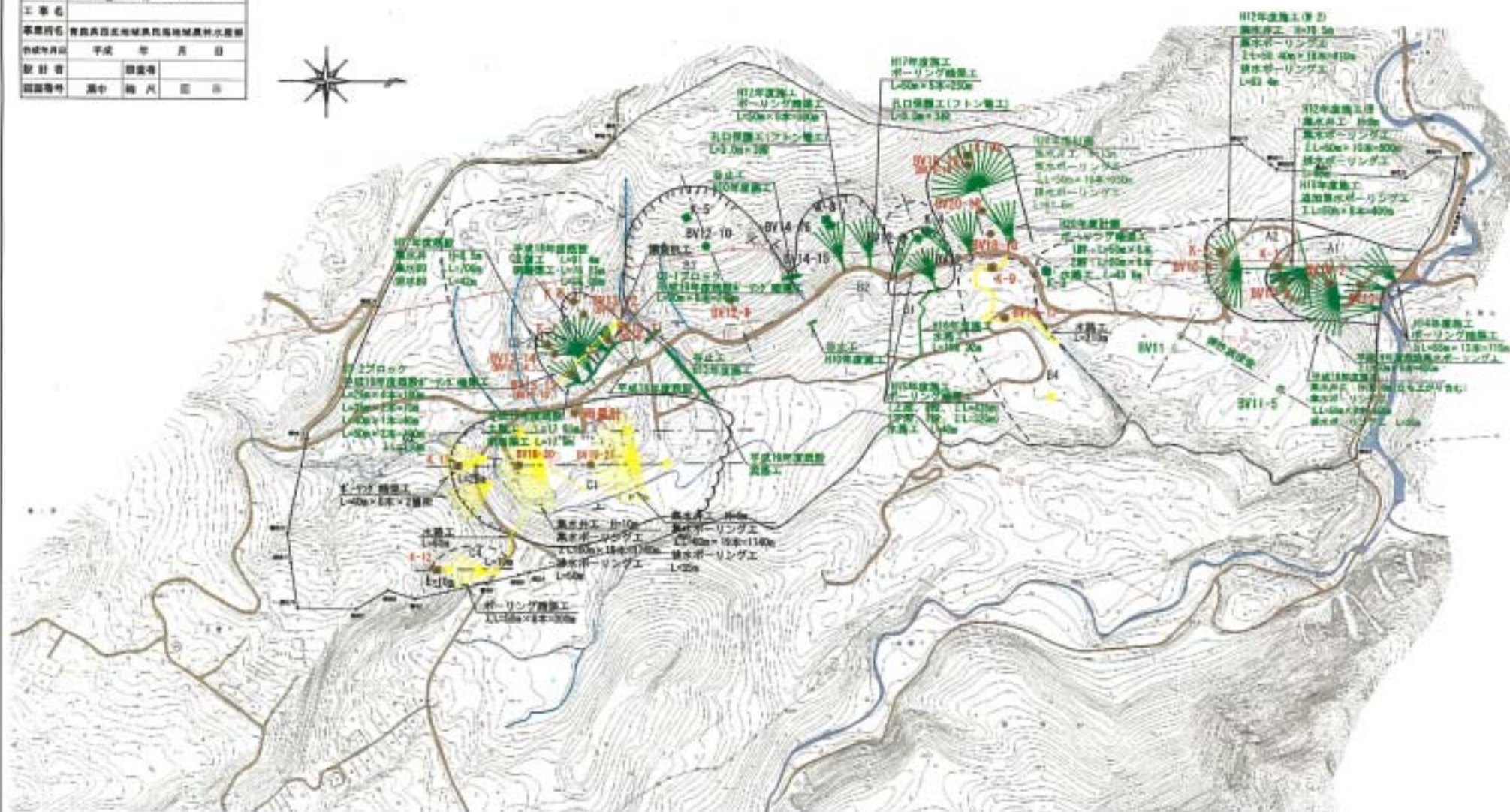
- ・年平均想定被害額:  $1,230 \text{百万円} \times 0.037$  (年間山腹崩壊発生率) = 46百万円
- ・評価対象期間: 整備期間 + 耐用年数(50年)
- ・現在価値化: 社会的割引率(4%)により現在価値化する。
- ・総被害想定額 = 1,233百万円(総便益)

## 【費用対効果分析の結果】

$B/C$  (再々評価時点) =  $1,233 \text{百万円} / 908 \text{百万円} = 1.36$



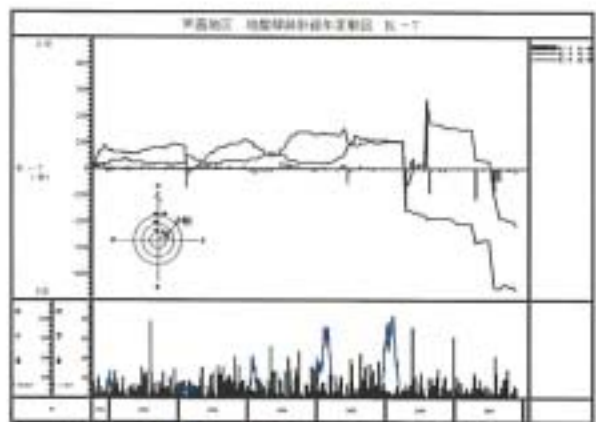
年度	平成 20 年度
名称	調査・対策工平面図
施工地	西海郡 志摩町 大字 志摩町 志摩町
工事名	
事業計画	青森県西志摩郡志摩町地域中小河川
作成年月日	平成 年 月 日
設計者	
図面番号	測中 縮尺 図示



平成20年度 芦花地すべり調査・対策工平面図



年度	平成 19 年度
名称	C3-2ブロック計画図
施工地	兵庫県 芦屋市 芦屋 芦屋 芦屋 芦屋
工事名	
事業所名	芦屋駅前北地区再開発用地造成工事
作成年月日	平成 19 年 月 日
設計者	株式会社
図面番号	第 〇 〇 〇 図



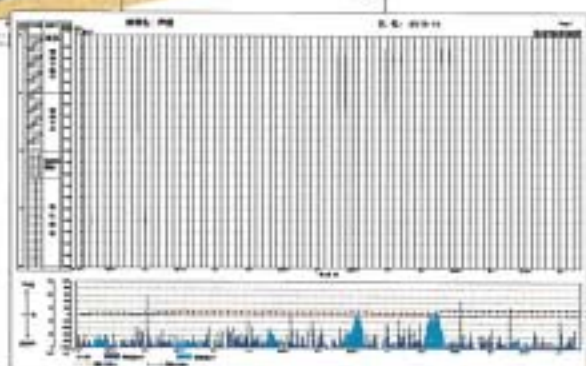
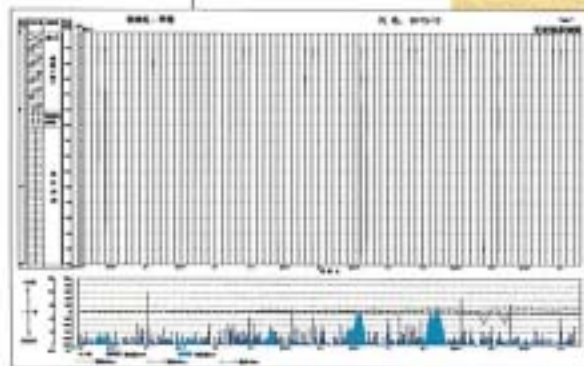
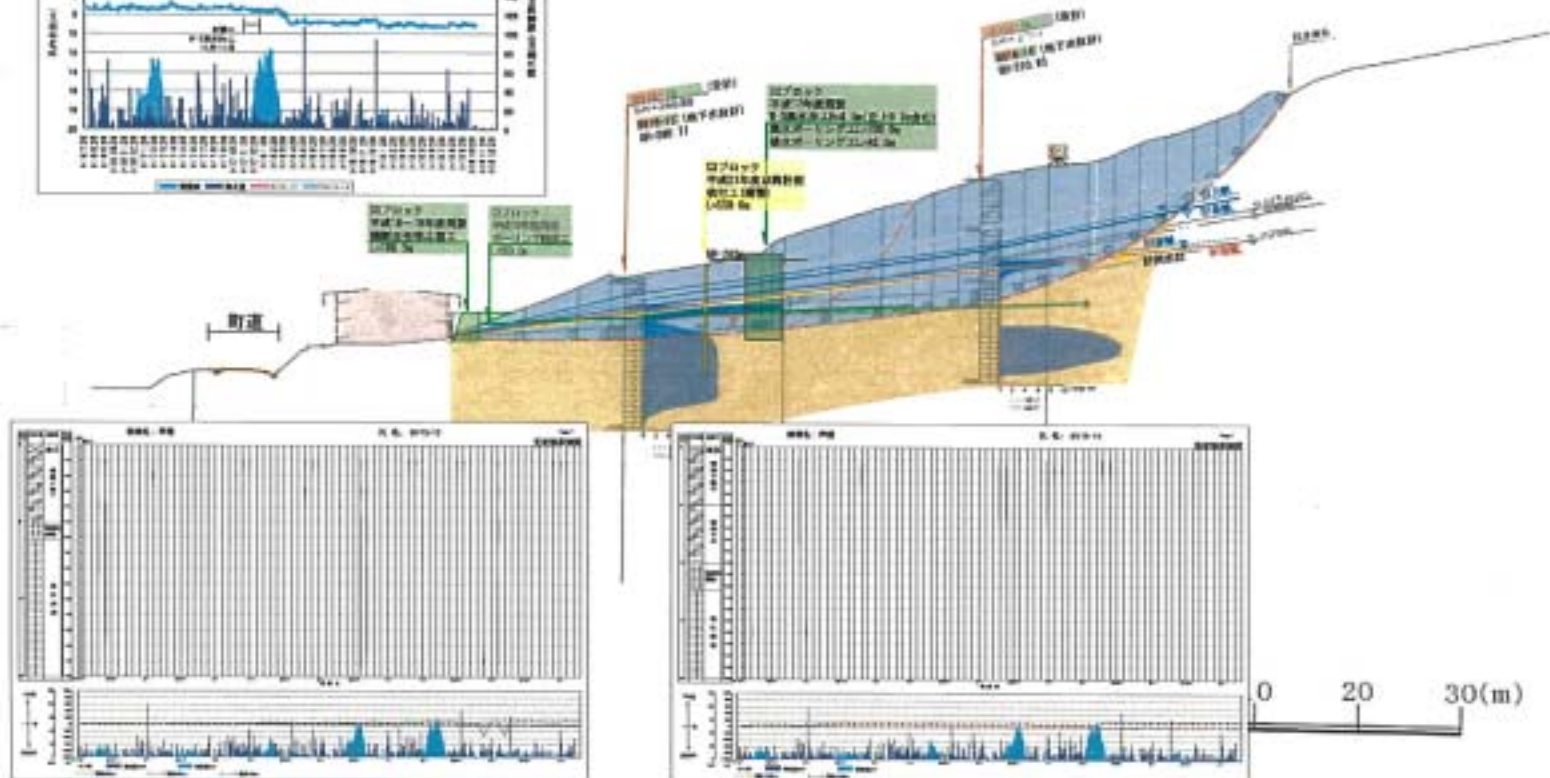
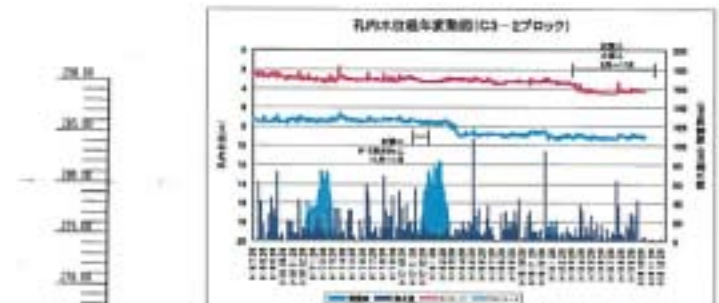
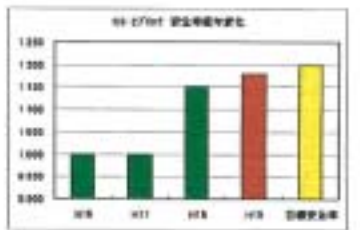
ブロック	土質係数	実況計画設計	安全率
C3-2	0.0 5000 (17/0)	新築完全設計 (17/0)	Fact 0.0
	0.0 5000 (17/0)	新築完全設計 (17/0)	Fact 0.0
	0.0 5000 (17/0)	新築完全設計 (17/0)	Fact 0.0
	0.0 5000 (17/0)	新築完全設計 (17/0)	Fact 0.0

0V10-12 地下水位 (m)

日付	時刻	水位 (m)	備考
01/16	12:30	0.79	
01/17	1:00	1.58	
01/18	3:00	0.68	
01/19	3:44	0.67	

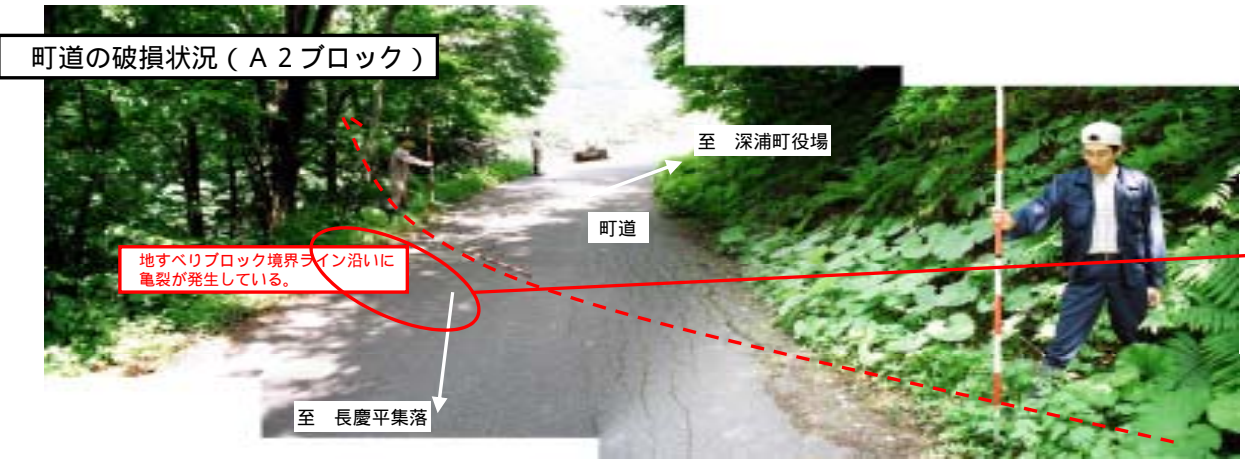
0V10-14 地下水位 (m)

日付	時刻	水位 (m)	備考
01/16	6:32	0.76	
01/17	8:53	1.00	
01/18	8:45	0.56	
01/19	8:57	0.54	



C3-2ブロック断面図

# 地すべり防止区域内の被災状況



5



# 事業実施状況 (A1・A2ブロック)

事業実施前



湧水の影響で、地すべりブロック  
末端斜面が崩壊、裸地化した状態  
である。



裸地化した斜面の拡大写真。  
凝灰岩薄層粘土が露出する。

事業実施後



現在は、地下水排除工の効果により  
湧水が減少し、緑化、安定して  
いる。

